

平成24年度 学校評価実施報告書

次のとおり学校評価を実施しましたので報告します。

学校目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	学校評価
	具体的な手立て	評価の観点	達成状況	課題・改善の方向等		
1 幅広い生徒の学習希望に応えるため、専門スキルを身に付けられる学習機会を提供し、工科高校として特色ある学校づくりをめざす。	①これまで以上に各種検定や資格取得に取り組めるように工夫する。	①検定や資格の取得者を増やし、生徒の学習意欲を高めたか。	○計算技術検定・情報技術検定の全学年合計の合格者割合は、計算技術検定4級 85%、情報技術検定3級 25%で、計算技術検定は目標の75%を超えたが、情報技術検定は目標の40%には達しなかった。 ○1年生は両検定とも全員受検とし、補習なども全員で取り組むようにした。 ○2・3年生の合格者は上記2つの検定で70人から81人へ増加した。	○情報技術検定では授業担当から、もう少し指導するための時間があれば合格率を上げられたという意見が複数あった。 ○来年度は授業の曜日ごとの割振りを予定しているため、授業時間の確保が可能になる。 ○放課後の指導をする場合、時間をどのように捻出するかが大きな課題である。	(保護者) ○ものづくりの発想が豊かになるような柔軟な感性がもてるように、様々な体験・鑑賞や日本古来の技にふれるなど多角的に刺激を与えることが必要。 ○資格取得の指導をすすめてください。 ○技術検定の詳細をホームページでも知らせて欲しい。 ○工科高校の存在が世間に浸透していない。不良が多い学校と思われるのが残念。 (学校評議員) ○資格取得へのきめ細かい指導によって、学習意欲の向上が図られている。	(学校評価) ○1年生に計算及び情報技術検定ともに全員受検とし、さらに指導体制もきめ細かくしたことで、他の学年も含めて学習意欲を高めることができた。
	②高大連携を推進し、体験的な学習や発展的な学習の機会を工夫する。	②大学と連携した学習機会の提供ができたか。	○課題研究では、関東学院大学の讃井副学長にお越しいただき、ものづくりの企画段階の考え方などを講義していただき、4ショップから10テーマについて企画段階のレビューを行い、方向性などについて討論した。 ○総合デザイン系と情報通信系で湘南工科大学の施設見学と講義を受けた。	○授業(座学)での連携は職員間で個別の結びつきを作っていないとお互いにどのような授業に活用できるタネがあるかわからないのでなかなか難しい。 ○来年度も方法を模索しながら取り組んでいく。	○就職が厳しい中、資格や技術を身につけて特色ある職業を選ぶという強みがある。 ○課題研究は工業教育の集大成であるので、企画・計画段階からの検討や発表におけるコミュニケーション能力の更なる育成が必要である。 ○評価の観点に対して、どのくらい達成できたかを文章ではなく、具体的な数値で表した方がよい。 (第三者評価) ○工科高校として、幅広い学習ニーズに対応する多様で柔軟な教育を実施しているが、各科目間の連携や知識技能の系統的な育成が必要である。	○課題研究のレビュー会を開催したことで、生徒の興味関心が高まった。 ○シラバスの様式・内容を変更したことで、各教科・科目の目標及び取り組む内容を生徒に明確に示すことができた。 (改善方策等) ○1年生への資格取得への意識付けができたので、今後も指導を継続するとともに、上級資格の取得に向けて意欲の向上を図る。
	③シラバスの様式及び内容を工夫する。	③シラバスの改善・充実ができたか。	○シラバスの一部を2年次系・科目選択の資料として新たに編集して、全1年生の進路選択の参考資料として配布することにより、シラバス活用場面を拓けるとともに、選択する科目の内容を生徒により詳細に知らせることができた。 ○次年度(新カリ)に向けて、シラバスの様式の一部を、到達目標及び評価に関する記述がより生徒にわかり易いものとしてできるように改訂した。	○シラバスを目的に合わせて利用できるようになったことで、系・科目選択の為の資料が充実し、系・科目選択がよりスムーズに行えた。 ○新カリキュラム対応シラバスについては、評価に関する部分を書き替えてもらったが、新カリスタートに向けて、さらに生徒が使いやすいものになるよう来年度も改善を働き掛ける必要がある。	○総合技術科として10年を経て、学科や6つの系もほぼ安定的に運営されている。また、1学年の基礎科目と各系の科目との関連性、系統性も図られている。 ○課題研究の内容については、高大連携事業を活用した企画・計画レビュー会が設けられ、検討と改善が図られている。実際の授業においても、学習の成果をいかした生徒の主体的な学習や応用的な学習が実施されていた。 ○学校設定科目については見直しを重ね、継続性のあるものに改善されている。 ○基礎基本的な学力の定着に努めているが、普通教科(共通教科)の編成に工夫が欲しい。 ○次の10年間を目指して、資格取得・上級学校進学・国際化・グローバル化等に対応できる自由選択科目の充実を検討して欲しい。	○課題研究においては、生徒がより主体的に取り組めるように大学との連携を更に充実させる。 ○改訂したシラバスについて、生徒の学習状況に応じた見直しを行う。

平成24年度 学校評価実施報告書

次のとおり学校評価を実施しましたので報告します。

学校目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	学校評価
	具体的な手立て	評価の観点	達成状況	課題・改善の方向等		
2 規範意識を身に付けさせ、社会から期待される主体的な行動力を持った生徒の育成をめざす。	①生徒と教職員のコミュニケーションを密にするとともに、一人ひとりの状況に応じた指導を行う。	①遅刻、服装・頭髪のルール違反、特別指導の件数が減少したか。	○基本的な生活習慣の頭髪服装指導については、指導対象者の多くは改善指導に従っているが、一部の生徒は改善しては又違反をするという常習者がいる。 ○立ち番指導で予防しにくい問題行動については、授業中の生徒観察・教員同士の情報共有・生徒からの情報提供等から、生徒の動向に注意している。 ○年間100日を超える遅刻常習者は減少した。	○段階的指導により生徒とやり取りをし、生徒に自覚をさせて改善していく方法を取っている。一部の規範意識の薄い生徒に対しては、一段階踏み込んで、強い指導が必要であり指導方法については検討をしていく。 ○全職員で生徒指導に当たる意識を持って、引続き生徒の動向に注意し問題行動の未然防止に努める。 ○段階的な遅刻指導は着実に成果を上げているが、常習者には改善がみられないので、更にきめ細かく指導していく。	<p>(保護者)</p> ○頭髪。服装指導をもう少し厳しくすべきではないか。 ○基本的な身だしなみができていない。保護者自身も子どもの身だしなみについて気をつけてもらいたい。 ○意欲の乏しい生徒や精神的に不安定な子どもを見捨てないで欲しい。 ○学校の建物をきれいにする活動。例えば、生徒・保護者も参加して建物の修繕やペンキ塗りなどの企画。 <p>(学校評議員)</p> ○子どもは日常の状況で変化している。入学以前の問題を考えるのではなく、日々の学校での指導を地道に行っていくことが一番大切である。 ○PTAの役員で昼休み前後に校舎内を回ったが、以前よりきれいになっていた。 <p>(第三者評価)</p> ○遅刻、授業マナー、頭髪、服装等については改善傾向が見られ、特別指導の件数も減少しているが、ゼロではないので、更にきめ細かな指導を継続する必要がある。 ○5 S活動の教育的意義は高いと考えられるが、部活動だけでなく、通常の授業においても実施できるようにしたい。また教室や廊下などの清掃はおおむね行き届いているが、整理整頓の必要な教室もみられた。	<p>(学校評価)</p> ○学校環境の整備や中抜けに対する指導を確立したことで、成果をあげた。 ○全職員共通理解のもと、個々の生徒に応じた指導を実施したことで、改善が見られた。 ○部活動において、5 S運動を導入したことで、生徒の意識が変化し、お互いに協力しながら、整理整頓ができるようになった。 ○教育相談会議やケース会議を通して、生徒一人ひとりの状況を理解することで、個別の支援をすることができた。 <p>(改善方策等)</p> ○基本的な生活習慣の確立に向けては、全職員の共通理解のもと、きめ細かい指導に努めるとともに、段階的指導により生徒の変容を導く。 ○5 S運動を部活動だけでなく、学校全体の運動に広げるとともに、藤工WAYを設定し、生徒の更なる意欲の向上を図る。 ○教育相談会議やケース会議を通して、全職員が生徒一人ひとりの状況が、常に個別のものであることを認識し続けられるように、意識啓発を行う。
		校内の環境整備や状況に応じた利用マナーが昨年より向上したか。	○通学路清掃・地域清掃・ごみの分別活動等を全員参加のもとに行った。 ○社会のルールや自らが社会の担い手であることを理解させることができた。	○地域清掃の回数を増やすなど量的により充実させることが今後の課題である。		
		②藤工WAYを策定し5 S活動を定着させる。	②藤工WAYが設定できたか。 5 S活動が計画通りでできたか。	○5 S運動をさらに推進し、来年度には藤工WAYを設定する。 ○時間・立会・点検・項目周知等に改善点が指摘され、部活動ごとの診断シートを用いたことにより成果があがった。 ○診断場所を変えてきれいな学校づくりを推進するとともに、参加者のアンケート結果を参考に改善をしていく。		
	③スクールカウンセラーと連携して教育相談体制を充実させるとともに、教育相談会議や研修会を有効に機能させ、全職員が共通理解を持って教育相談にあたる。	③スクールカウンセラーや専門機関と連携して、適切な対応ができたか。	○発達障害、高機能広汎性発達障害児者の持つ「枠組み」について、研修会を実施した。(7月26日) ○5月と11月の2回の教育相談会議を活用しながら、情報の共有化に努めた。	○虐待についての、研修会も必要である。 ○案件が多く、細部にわたる情報共有が難しい場合もあるため、相談体制の充実が必要である。	<p>(教育相談体制)</p> ○教育相談体制については教育相談コーディネーターを中心に計画的に実施されており相談室も整備されて、生徒の必要なニーズに対応していると考えられる。 ○ケース会議の時間の確保や支援を必要とする生徒の把握方法に課題を残している。	
			ケース会議を実施し、個別の支援ができたか。	○生徒対応が多く、ケース会議の時間確保が難しい。 ○個々のケースについて、見通しを持って計画的にケース会議を開催する。情報共有と支援を充実させる。		

平成24年度 学校評価実施報告書

次のとおり学校評価を実施しましたので報告します。

学校目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	学校評価
	具体的な手立て	評価の観点	達成状況	課題・改善の方向等		
3 習得段階を意識した授業を行い、思考力、判断力、表現力の向上をめざす。	①生徒による授業評価、研究授業や校内研修を通して、各教科・科目の学習課題を把握し、授業改善を図る。	①「わかる、憶える、できる、教える」といった習得段階を意識した教育実践ができたか。	○外部講師による校内研修会を実施。(9月4日) ○研究授業実施計画については、各教科で8月31日までに決定した。 ○年間2回の授業評価アンケートを実施し、授業への満足度は伺えた。 ○これまでの取り組みで、授業改善に向けて教員の意識改革が行われつつある。	○組織的な取り組みという面では、一部の教員の負担が増えた。 ○更なる組織的な授業改善に向け、次年度2回の大規模な授業研究会を計画。第1回目は6月7日に実施予定。	(保護者) ○毎日、いきいきと通っています。入学させて良かったと、感謝している。 ○小学生の弟は、兄が何か作って帰ってきた日は「必ず藤工に入って僕も作る」と言っています。 ○工業を学びたくて入学した生徒とそうでない生徒の差が激しい。しっかり学べる環境と学校全体の向上を。	(学校評価) ○組織的な授業改善に向けて、授業研究の事前事後協議を充実させたことで、よりわかる授業に向けた改善がなされ、成績不振者も減少した。
		思考力・判断力・表現力の向上や問題解決能力が強化できたか。	○生徒のアンケートでは、プラス評価の回答が増加した。	○授業改善への取り組みの結果、どのように生徒が変容したかを、どう読み取り評価するか。集計方法と活用の方の検討。	(学校評議員) ○成績不振者が減少したことはよいが、ゼロにするには、生徒が悪いのか、教え方が悪いのかを分析し、何が不足しているのかを追及する必要がある。	○「生徒による授業評価アンケート」を記名式にしたことで、生徒の自由記述が増え、個人ごとの授業改善への取組が深まった。
		「わかりやすい授業が行われている」「学びやすい雰囲気である」という生徒を増やすことができたか。	○生徒アンケートでは「わかりやすい授業が行われている」では66%、「学びやすい雰囲気である」では56%がプラス評価で、昨年度より増えた。	○授業改善をとおして、よりわかりやすい授業に取り組んでいく。	○点検や評価は細かく行われ、改善に向けた努力が見られるが、授業評価を底上げする方法の工夫が必要。 ○単年度で判断するのではなく、数年間は同一方式で行って結果を判断すべきである。	○補習等への取組が充実し、生徒の目標・実情に合わせた指導が効果をあげた。
		成績不振者を減らすことができたか。	○1年生では、転退学者が10名と、昨年度より増えたが、目的のはっきりしなかった生徒に対する進路を含めたきめ細かな対応の結果である。 ○2・3年生では、成績不振者は減少した。	○個々の生徒の状況に応じて、きめ細かい指導を継続する。	(第三者評価) ○生徒の習得段階を意識した授業を基本とした授業改善への取組が行われ、教員の授業改善への意識改革が進みつつある。 ○専門教科の実習授業では生徒同士が教え合うという、「教える」という習得段階を意識した授業も展開されている点は評価できる。	○課題研究の発表会では、充実した発表が行われ、生徒のプレゼンテーション能力が向上した。 (改善方法等) ○更なる授業改善に向けて、授業研究日を設定し、事前事後協議も充実させ、習得段階を意識した取組を充実させる。
	②個々の生徒の状況に応じて、基礎・基本を定着させるため、補習指導や追試験の機会を設定する。	②生徒の実情やニーズを踏まえた学習を展開することができたか。	○年間を通じて65講座の補習指導が行われた。内容はテスト対策、課題指導などの学習指導、資格指導の補習講座、成績不振者対象の補習指導などが開講され、生徒の目標・実情に合わせた指導が行われた。	○1年生全員対象の資格取得指導講座が広く行われ、合格者数が増えた。また成績不振者数の減少も見られた。 ○今後の課題としては成績上位者向けの指導を充実させることが必要である。	○普通教科の授業の中には、生徒の参加や主体的な活動などの工夫、教員と生徒の応答が更に必要と思われる授業がみられる。全体としては教員の授業改善への意識は着実に浸透しつつあると思われるので、この点を評価しつつ、今後は普通教科の授業改善を中心に更に取り組んでもらいたい。 ○成績上位者、上位の資格取得を目指す者、大学進学者などへの講習の充実が今後求められる課題である。	○実習については興味関心を引き出すことができ、技術が身についたと感じる生徒が多いので、座学にも体験的要素を取り入れ、生徒主体の授業展開とすることで、学習習慣の確立を図る。
		「学習習慣が身に付いた」という生徒を増やすことができたか。	○「学習習慣が身に付いた」という生徒は、昨年の49%から46%と減少したが、「実習をつうじて、いろいろな技術が身に付いた」という生徒は、84%から85%と増加した。	○各教科・系と連携して、生徒の学習状況・課題の提出状況を把握し、きめ細かい指導を行う。	○1, 2年次は各教科単位できめ細かく小集団学習が展開されており基礎学力の充実に努めている点は評価できる。今後は習熟度展開についても検討し必要な教科から実施していくことも考えてもらいたい。	○課題研究のテーマには、工業の内容に特化したものになるよう、大学との連携を更に深め、テーマ設定からより深い議論ができるように展開する。
	③高大連携を通して、課題研究の内容や取り組み状況を充実させる。	③生徒の学習意欲やプレゼンテーション能力は向上したか。	○生徒は良く準備して企画段階のレビューに参加した。他の班のレビューを見るのも刺激になった。 ○生徒は自主的に課題に取り組み、プレゼンテーションを作成し、発表もしっかりできた。	○課題研究の発表会に向けてプレゼンテーション能力の向上を目指して指導を継続する。 ○工業に関する内容でないテーマが見受けられたので、改善する。	○小集団学習について、生徒からは一部の教科ではクラスによって進度や内容に違いがあり困るという意見が寄せられた。小集団学習が真の意味で効果を上げるためには、共通テストの実施が前提である。そのためにも国語科、地歴・公民科での共通テスト実施が必要である。	

平成24年度 学校評価実施報告書

次のとおり学校評価を実施しましたので報告します。

学校目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	学校評価
	具体的な手立て	評価の観点	達成状況	課題・改善の方向等		
4 特別活動や キャリア教育・進路指導の充実を図り、生徒の社会生活実践力を育成し、進路希望の実現をめざす。	①総合ガイダンス、進路説明会等を通して、生徒が自分自身で進路選択ができるようにサポートする。	①「総合ガイダンスが有益である」「進路希望に応じた進路指導が行われている」という生徒が昨年より増えたか。	○「総合ガイダンスが有益である」は72%から76%、「進路希望に応じた進路指導が行われている」は67%から69%と増加した。 ○1年生では、生徒が自主的に2年次以降の系を決定できた。自らの将来像についても描きつつある生徒が増えている。 ○2年生では、進路ガイダンスや高校内企業説明会の実施、高校生向け企業説明会への参加等により、生徒の進路選択への意識が向上した。	○キャリアシンポジウム、職業別ガイダンスにより、分野別の仕事、自分が興味ある仕事についての理解を深めることができたが、このような機会を複数回設置する。 ○将来像についてさらに具体的に、学年と進路Gが連携し、組織的に生徒への情報提供と進路指導を検討していく。	<p>(保護者)</p> ○2・3年生の上級生が思った以上に声を掛けてくれて、遠くから通っているが頑張っているのが安心している。 ○部活動(運動部)の加入率を上げ、活発に活動して欲しい。 (学校評議員) ○長年インターンシップに取り組んでいるが、担当者が変わると引継ぎができていない。各企業との過去の経緯を記録として残しておく必要がある。 ○インターンシップでは、最初はコミュニケーションができなかった生徒が最終日には表現できるようになるので効果がある。興味を持てるものを作り上げていくためにも、積み上げが必要である。 ○プレゼンテーション能力を高めるため、絶えず表現する場を与えることが必要である。 (第三者評価) ○「キャリア教育実践プログラム」が作成され、目標や組織、教科・科目、取組等が整理されていることはキャリア教育を体系化する点で効果的な取組である。また総合ガイダンスが自らの進路や系を考えるための有効な機会となっている。 ○今後の課題としては以下の点が挙げられる。 ・インターンシップ参加者の拡大 ・専門に関わるインターンシップが体験できる受入先の確保 ・教育課程全体を通じて、役割意識や責任感、表現力や分かりやすく伝達する力等のキャリア発達に関わる諸能力の育成 ・普通教科におけるキャリア教育の実践 ○生徒会の文化祭や球技大会での主体的な活動が見られるが、更にそれらの活動への積極的な支援体制が必要である。 ○部活動の活性化には部活動加入率の数値目標を掲げて積極的に推進している。また2年次の加入率の減少を今後の改善課題として取り上げているので、今後の取組に期待したい。	<p>(学校評価)</p> ○1年は総合ガイダンスで、2年はインターンシップで進路選択の動機付けが行えた。 ○インターンシップや企業見学等を体験する生徒が増え、勤労観・職業観の育成ができた。 ○3年生では進路選択意識の低い生徒もいたが、個々の状況に応じて指導することで、全生徒の進路先が確定できた。 ○部活の加入率は、運動部35%、文化部15%と目標を設定したが、運動部24.4%、文化部25.6%で文化部は目標を達成したが、運動部は達成できなかった。 (改善方策等) ○「県立高校におけるキャリア教育の推進について(指針)」のもと、キャリア教育実践プログラムの見直しを行い、入学から卒業まで系統的なキャリア教育に取組、生徒一人ひとりの進路選択の充実を図る。 ○インターンシップの充実を図るためには、全職員の協力体制を確立することが必要なため、実施マニュアルの作成を行う。 ○部活動の加入率の増加や取り組みの活性化を図るため、部活動ドリームプランの活用を推進する。
		生徒一人ひとりに応じた進路指導ができたか。	○昨年度に比べて進路決定が遅れがちだったが、最終的には全員の進路先が確定した。	○自分の進路について行動が消極的な生徒が見受けられるので、きめ細かい指導を継続し、進路未決定で卒業しないように働きかけを行う。		
		②インターンシップや職場体験への参加を推進するとともに、発表会を充実させる。	②インターンシップへの参加生徒を増やすことができたか。	○夏期休業中と各系毎に実施し、参加者合計105名と昨年より増加した。 ○学年や各系の協力を得て、実施できた。校内体制も、ほぼ固まってきた。		
	生徒のプレゼンテーション能力は向上したか。	○インターンシップ発表会を3月19日に実施した。 ○冊子と発表用のプレゼンを作成するとともに、練習会を実施したことで、プレゼンテーションが良くなった。	○限られた時間の中での運営で、司会との連携がうまくいかなかったため、練習会等の事前指導を徹底する。			
	③学校行事に対する生徒の主体的な取組を支援するとともに、部活動の活動状況の相互チェックを行い改善する。	③「学校行事に積極的に参加している」という生徒を増やすことができたか。	○生徒アンケートでは、「積極的に取り組んだ」76.2%、「あまり積極的ではなかった」19.8%、「取り組めなかった」4%で、目標の8割を超えることはできなかった。	○目標の8割を超えることはできなかったが、役員、委員、参加団体は積極的に準備をしていたので、新しい企画等を考えあまり積極的ではなかった生徒を積極的に参加させた。		
		部活動の加入率が50%を超えたか。	○加入率は、1学年73.1%、2学年37.8%、3学年35.7%で全学年平均は50.6%であった。 ○運動部24.4%、文化部25.6%で、文化部は目標を超えたが、運動部は目標を達成できなかった。	○部活動状況調査を分析し、生徒のニーズに合った部活動の検討をする。2年の加入率(残留)を上げるために部活動ドリームプランの活用を推進する。		

平成24年度 学校評価実施報告書

次のとおり学校評価を実施しましたので報告します。

学校目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	学校評価
	具体的な手立て	評価の観点	達成状況	課題・改善の方向等		
5 保護者や地域と連携した教育活動を通して、地域に開かれた学校づくりをめざす。	①生徒が主体的に学習姿勢を振り返られるように、小・中学校や地域との連携・交流事業を充実させる。	①連携・交流事業の参加生徒を増やすことができたか。	○学校説明会参加者数は、のべ798名で、アンケートの意見・感想はおおむね好評であった。 ○藤沢産業フェスタ、わくわく体験工作教室、六陵祭、文化祭、小学生との交流事業、出前授業などで、生徒たちが指導をする機会を得、励まされたり感謝される中で、コミュニケーション能力を向上させ、工業高校生である自信と誇りを得ることができた。 ○小学生との交流はTVKテレビのニュース番組でも紹介された。	○学校までの案内について、分かりづらいとの意見があったので、パンフレットやホームページで工夫する。 ○次年度、総合技術科とさらに連携し、地域交流と生徒の学習の質向上のため学校全体の取り組みとして推進する。 ○授業(座学)では高大連携の機会を作ることができなかつたので、今後検討する。	<p>(保護者)</p> ○地域からの評判が良い学校づくり。出前授業や小・中学校との交流。 ○藤工は健全に運営されていると思う。ものづくりの学校の存在を重視し、しっかり学ばせて欲しい。 <p>(学校評議員)</p> ○生徒が教えることを体験することはよい機会である。 ○子どもたちが専門の知識を持って指導しているので、中学生の藤工に対する意識が変わってきている。 <p>(第三者評価)</p> ○小学校、中学校、大学、専門学校、企業と幅広く連携が図られており、開かれた学校づくりが積極的に進められているが、キャリア教育の意味、ねらい、内容、方法等を整理する必要がある。 ○小・中学生を対象にした「わくわく体験教室」は日々の学習成果をいかすと同時に、生徒の達成感や自己有能感の形成に寄与している。また、小・中学生に工科高校を実際に知ってもらい良い機会となっている。今後も定員を増やすなどして、更に拡大してほしい。 ○その他、ボランティア部や課題研究選択者によるイベント等への参加が行われ地域に貢献している。 ○工科高校として特色ある教育活動を幅広く展開されている現状から、それを支援する立場での、藤沢工科高校独自の保護者・PTA活動に期待したい。 ○学校の持っている力(ものづくり、生徒の行動力など)を近隣住民の生活に役立てるなどして町内会活動に協力したり、また地域住民の教育力を学校活動に活用したりするなどして、地域住民と直結した連携が求められる。	<p>(学校評価)</p> ○わくわく体験工作教室では、小学生の定員が40名であったが、倍の希望者があり全員受け入れた。実施後のアンケートでは、小・中学生とも高い評価を得た。 ○地域や小・中学校等との連携事業をとおして、生徒が指導する機会を得、励まされたり感謝される中で、コミュニケーション能力の向上が図られた。 ○生徒が教えたことがわかってもらえたという喜びをとおして、達成感を得ることで、個々の学習意欲の向上が図られた。 <p>(改善方策等)</p> ○体験事業への希望者が増加傾向にあるので、募集から実施までの運営方法を再検討し、受講者にも混乱のないような方法で実施する。 ○県立高校教育力向上推進事業Ver.Ⅱにおいて、「地域等連携教育」の研究推進校の指定を受けたので、生徒の工業教育の学びを深化させるとともに、学校全体で取り組むためのモデル的な推進体制の確立を目指す。 ○行事ごとに異なる生徒や教職員・グループで担当していた取り組みを一本化し、校内組織を確立させることで、全職員の共通認識のもと、学校全体として、ものづくりを通じた教育力の向上を図る。
		連携・交流事業において、生徒が主体的に活動できたか。	○わくわく体験工作教室では、生徒は59人が手伝いに参加し、指導を担当した。小学生は71%が楽しかったと回答。中学生は興味を持って取り組めたという回答が91%だった。PTAは16名が参加し、記述式アンケートだったが非常に好評で高校生が教えている姿はよいという意見もあった。 ○六陵祭13名、ロボフェスタ8名、出前授業25名、小学生交流95名、産業教育フェア46名、イルミネーション湘南台30名の生徒が参加した。	○わくわく体験工作教室では、例年に比較して多くの応募があり、第1希望のショップに入れない人が多かった。最終的には増員可能なショップを大幅に増員して第3希望まで回ってしまう人もいたが、全員を受け入れた。募集方法を含め、あまりに定員オーバーして無理な運営にならないよう、方策を検討する。 ○小学校への出前授業、小学生交流事業等多くの生徒が参加し達成感を持たせることができたが、さらに充実できるようショップの内容を再検討する。		

平成24年度 学校評価実施報告書

次のとおり学校評価を実施しましたので報告します。

学校目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	学校評価
	具体的な手立て	評価の観点	達成状況	課題・改善の方向等		
6 責任ある学校運営体制を組織的に確立し、家庭や地域から信頼された学校づくりをめざす。	①職員一人ひとりが自覚を持って、事故・不祥事防止に関する取り組みを充実させる。	①全職員の事故・不祥事を防止できたか。	○事故や不祥事防止に向け、各研修会が開催され、特に人権研修会の持ち方に工夫し、テーマについては肯定的な評価となった。 ○グループごとに「不祥事ゼロプログラム」を作成し、課題・目標を定め点検検証を行った。 ○朝の打合せ時の「一言スピーチ」の実施を通して、各自が課題を自覚的に捉えるように工夫した。	○研修テーマを選ぶ際、どの研修だったら充実したものになるか、深められるかが人により違うことがわかった。 ○研修会の不参加者への内容の伝え方をどうするか。紙ベースでない方法も検討する。 ○「朝の一言」は意識啓発の取組としては優れたものであるが、3巡目に入り各自にややマンネリを打破するために新たな工夫を取り入れた上で更に継続したい。	(保護者) ○保護者として、学校と共に子どもを育てるという意識をもっていきたい。 ○保護者も、もっと学校のことを知る努力が必要。 ○まちcomiメール配信をもっと増やして下さい。学校行事や子供たちの様子をもっと知りたい。 ○保護者同士が交流を持てる機会がもっとあると良い。	(学校評価) ○不祥事防止に関しては、グループごとにテーマを設け、課題・目標を定め点検検証を実施することで、充実した取り組みがなされ職員の事故・不祥事防止に対する意識が向上した。 ○まちcomiメールを導入したことで、保護者への迅速な情報発信が可能となった。
	②防災訓練の内容を充実させるとともに、家庭との迅速かつ的確な連絡方法を整備する。	②家庭との連絡体制が整備できたか	○防災に関する校内業務マニュアル、災害時連絡カードの作成した。 ○東日本大震災の教訓を生かした年2回の防災訓練による啓発活動を行った。 ○「まちcomiメール」を利用した家庭メール便の発信を3回実施した。メールシステム登録者数452名（全体の約65%）。	○緊急時の連絡が、全生徒の保護者に対して漏れなく届く連絡体制の確認を行う。 ○校内業務マニュアルの整備する。 ○「まちcomiメール」の登録者数を増やす努力をする。	(学校評議員) ○ホームページなどにより最新の情報を発信し、的確迅速な内容の発信に努めているが、「まちcomiメール」の登録者数を増やす努力が必要である。 ○学校から保護者宛の文書が届いていない現状があるので、より確実な伝達方法の工夫が必要である。 ○グループリーダーと先生方との話し合いを更に充実させ、観点に沿って、DOを実行し掘り下げていく必要がある。	○HPが月2回以上更新できたので、生徒の活動状況をタイムリーに発信できた。 ○朝の打合せ時は、グループごとの座席であるので職員間の情報の共有化と迅速な対応が図られた。
	③・より一層、迅速かつ的確な情報発信を行う。 ・学校目標とその取組内容について、適切に評価するために引き続き生徒及び保護者にアンケートを行う。	③的確な情報発信ができたか。	○ホームページの更新回数30回。 ○ホームページを見て学校説明会の情報を得た中学生・保護者が多くあった。	○さらに更新回数を増やし、学校便り、進路情報、資格取得関連情報等の保護者向けのコンテンツを充実させる。 ○確実な配付・回収率を上げるため、メールでの調査など、効率的・有効的なアンケート実施方法を検討する。	(第三者評価) ○事故や不祥事防止に向けた充実した取組がなされ、成果をあげている。 ○防災への取組もきめ細かく対応されて安全対策に力を入れている。 ・校内業務マニュアル、災害時連絡カードの作成 ・防災訓練の実施 ・防災対策会議定期開催、防災面の点検検証 ・「まちcomiメール」による家庭連絡体制の整備 ○ホームページなどにより最新の情報を発信し、的確迅速な内容の発信に努めている。	(改善方策等) ○不祥事防止の更なる意識の高揚を図り、事故・不祥事の根絶に取り組む。 ○学校評議員会、第三者評価で指摘された意見をもとに、学校の取り組み内容を検証し、課題の改善を図ることで、より魅力ある学校づくりをすすめる。 ○HP及びまちcomiメールを活用して、学校情報の迅速な発信に努めるとともに、生徒・保護者アンケートを通して状況の把握に努める。